

ADP（ダーバンプラットフォーム特別作業部会）の議論

気候変動に関するボン会議 報告会

2012年6月14日

FoE Japan顧問

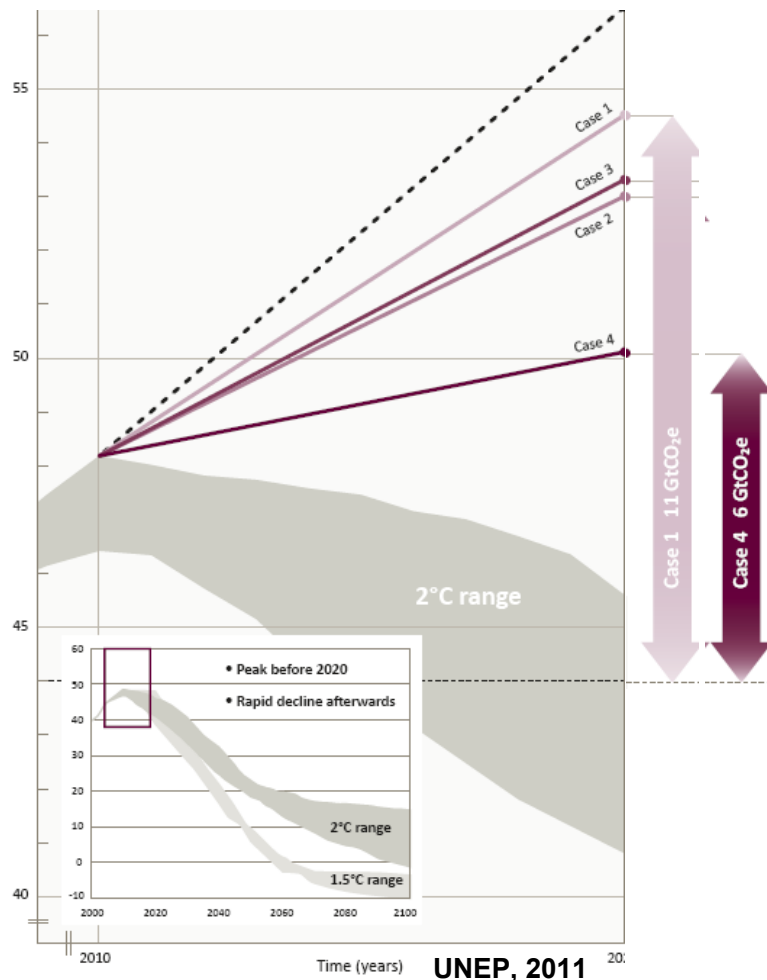
小野寺ゆうり



ボン会合公式折衝概要

第36回補助機関会合	
科学及技術上助言の補助機関 (SBSTA)	実施補助機関 (SBI)
・REDD+方法論 ・技術実行委員会と技術開発移転 ・先進国隔年報告共通フォーマット作業計画 ・隔年報告及び国別報告ガイドライン改訂作業計画 ・途上国の自力緩和行動モニタリング (MRV) ガイドライン ・国際航空海運部門対策 ・農業部門対策 ・CDM-炭素隔離貯蔵 (CCS)、植林再植林、土地利用変化 (LULUCF) ・ダーバン合意による方法論的影響 ・対応措置のフォーラム	・先進国及び途上国国別報告 ・途上国緩和行動 (NAMA) 試作レジストリ ・途上国緩和行動の国際コンサルテーションと分析 (ICA) 専門家構成と手続き ・国別適応計画 ・損失と被害 (適応) ・対応措置のフォーラム
第17回京都議定書作業部会 (AWGKP)	・先進国削減目標 (QERLOs) 約束期間の長さ、繰り越し余剰排出枠の取扱を含む ・京都議定書改正案の確定
第15回条約下での長期的協力行動作業部会 (AWGLCA)	・議題の議論 ・個別非公式小グループが作られたもの：共有ビジョン、先進国緩和行動、途上国緩和行動、REDD+、セクター別緩和行動、市場を含む多様な緩和行動、2013-2015年レビュー ・非公式全体会合で扱われた内容：適応、技術、資金、対応措置 ※ワークショップ：持続可能な開発と衡平性、先進国削減目標、途上国緩和行動、フレームワーク、新市場メカニズム
第1回ダーバンプラットフォーム特別作業部会 (ADP)	・議長選出及び議題の議論 ・緩和の野心引き上げの為のワークショップ

緩和の野心引き上げに関するADPワークショップ



例として各国から挙げられたオプションの主なもの

- ・ 吸収源(LULUCF)を極力控える(2-3Gt)
- ・ 追加性のない活動や二重カウントの排除(.7-2.8Gt)
- ・ 各国削減目標の上限で実施(2-3Gt)
- ・ 国際航空海運部門対策(.3-.5Gt)
- ・ 短寿命気候強制力因子（ブラックカーボン、対流圏オゾン、メタン）対策の強化
- ・ 森林(1.3-4.2Gt)、農業(1.1-4.3Gt)
- ・ 緩和計画未表明国の参加
- ・ HFC削減対策の追加的強化(0.5Gt)
- ・ 非効率な化石燃料補助金の廃止(1.7Gt)
- ・ 再生可能エネルギーの世界シェアを2020年迄に引き上げ(現10%→15%で>4Gt)
- ・ 国内法整備

ダーバン会合合意パッケージ要旨(プロセスのみ抜粋)

条約締約国会合決定1/CP.17

- ・ COP16-18の決定を通じ、バリ行動計画(COP13)に基づく合意に至る為に**AWGLCA**を1年間延長し、これをもって終了(terminated)される
- ・ 全締約国に効力のある議定書、他の法的文書若しくは法的効力を有する合意(an agreed outcome with legal force)の為、条約の下に作業部会ADPを設立し、遅くとも2015年迄に作業を完了しCOP21で採択、2020年から実施する
本文書では「共通だが差異ある原則」等個別の条約原則には言及無く「条約の下に」作業部会を設けるとあるのみ
- ・ **ADP**は2012年前半に緩和、適応、技術開発移転、行動と支援の透明性、能力強化を含む作業を計画
- ・ **ADP**はIPCC第5次評価報告、2013-2015年レビューの結果、補助機関の作業等により野心レベルを上げる(ポスト2020)
- ・ 全締約国の可能な限りの緩和努力を担保するため、野心ギャップを埋め得る一連の行動オプションを追求する緩和野心促進の作業計画を設ける(プレ2020)
どの機関がこの作業計画を担うのか触れていない

議定書締約国会合決定1/CMP.7

- ・ 第二約束期間は2013年1月1日に始まり、終わり2017年12月31日若しくは2020年12月31日はAWGKP17により決める
- ・ AWGKPによりまとめられた改正案についてtake noteする
つまり改正案自体を採択した訳ではない
- ・ 削減目標値(QERLOs)に変換する同決定附属Iにある先進国目標をtake note
- ・ これらのQERLOsを議定書改正案としてCMP8で採択する様要請する
- ・ 第二約束期間への繰り越し余剰排出枠の影響を評価し、CMP8で適切な行動をとる
- ・ AWGKPはCMP8迄に決定1/CMP.1に沿ってその作業を完了する

ダーバンプラットフォーム作業部会(ADP)の議題論点

議題当初案

- ✓ 2020年以降の新枠組（ポスト2020）交渉の為の作業計画づくり
- ✓ 2020年迄の（プレ2020）緩和目標の野心レベルを引き上げる作業計画

議論に於て出された主な各国見解

アンブレラグループ（日米含）、EU、南ア、小島嶼国連合（AOSIS）、後発開発途上国グループ等の見解

- ・ ADP設立と他の2つのAWGsの本年終了はセットでダーバン合意パッケージの核心である。閣僚が決めたことを再交渉するべきではない
- ・ ADPとバリ行動計画/AWGLCAの議論は切り離し、AWGLCAは今年で終了
- ・ プレ2020の野心レベル引き上げはダーバン合意に不可欠である
- ・ 条約原則の適用については先進国間で差がある

中、印、フィリピン、アルバグループ（中南米）、アラブグループ、アフリカグループ（一部）等

Venezuela, Argentina, Algeria, Bahrain, Bolivia, China, Comoros, Cuba, Democratic Republic of Congo, Djibouti, Ecuador, El Salvador, Egypt, India, Iraq, Jordan, Kuwait, Libya, Malaysia, Mauritania, Morocco, Nicaragua, Oman, Palestine, Philippines, Qatar, Saudi Arabia, Syria, Somalia, Sudan, Thailand, Tunisia, United Arab Emirates and Yemen

- ・ 衡平性、共通だが差異ある責任等条約の原則はADPにも適用される
- ・ カンクン合意(2010)、ダーバン合意（2011）に盛り込まれなかったAWGLCA案件はADPが引き継ぐ。ADPの議論は緩和だけでなく、緩和実施の為の支援を含む
- ・ ADPの実質作業開始は京都議定書改正案の採択及び条約下の作業部会AWGLCAが残りの作業を終えてから（緩和に於ける先進国削減目標の比較性を含む）
- ・ プレ2020の野心レベルの問題はADPではなくAWGLCAで扱われるべき
- ・ AWGLCAが作業完了しなかった場合はもう1年の延長を図るべき
- ・ 京都議定書締約国の義務不履行へ補足で言及



United Nations

FCCC/ADP/2012/1



Framework Convention on
Climate Change

Distr.: General
16 March 2012
Original: English

Ad Hoc Working Group on the Durban Platform for Enhanced Action

First session
Bonn, 17–24 May 2012

Item 2(b) of the provisional agenda

Organizational matters
Adoption of the agenda

Provisional agenda and annotations

Note by the Executive Secretary

I. Provisional agenda

1. Opening of the session.
2. Organizational matters:
 - (a) Election of officers;
 - (b) Adoption of the agenda;
 - (c) Organization of the work of the session.
3. Planning of work in accordance with decision 1/CP.17.
4. Workplan on enhancing mitigation ambition.
5. Other matters.
6. Report on the session.

II. Background

1. The Conference of the Parties (COP), by decision 1/CP.17, launched a process to develop a protocol, another legal instrument or an agreed outcome with legal force under the Convention applicable to all Parties through the Ad Hoc Working Group on the Durban Platform for Enhanced Action (ADP) established by the same decision.¹

2. The COP further decided that the ADP should start its work as a matter of urgency in the first half of 2012 and should complete its work as early as possible but no later than 2015 in order for the COP to adopt this protocol, legal instrument or agreed outcome with

¹ Decision 1/CP.17, paragraph 2.

GE.12-60486



ADP議題案（左上）と採択された議題（右）



United Nations

FCCC/ADP/2012/L.1



Framework Convention on
Climate Change

Distr.: Limited
24 May 2012

Original: English

Ad Hoc Working Group on the Durban Platform for Enhanced Action

First session
Bonn, 17–24 May 2012

Item 2(b) of the provisional agenda

Adoption of the agenda

Provisional agenda

1. Opening of the session.
2. Organizational matters:
 - (a) Election of officers;
 - (b) Adoption of the agenda;
 - (c) Organization of the work of the session.
3. Implementation of all the elements of decision 1/CP.17:¹
 - (a) Matters related to paragraphs 2 to 6;
 - (b) Matters related to paragraphs 7 and 8.
4. Other matters.
5. Report on the session.

¹ This item will be considered within the context of decision 1/CP.17 and under the Convention, without prejudice to the position of any Party or to the work of the other Subsidiary Bodies. Two workstreams, one on paragraph 3(a) and one on paragraph 3(b) are initiated. Further workstreams may be considered as the need arises.

GE.12-70757



ADP議長選出

	Non-Annex I Co-Chair	Annex I Co-Chair	Rapporteur
2012/2013	Dr J. Mauskar (Asia-Pacific) (Bonn 2012– end Bonn 2013)	Mr H. Dovland (WEOG)	Mr O. Shamanov (Eastern Europe)
2013	Mr K. Kumarsingh (GRULAC) (end Bonn– COP)	Annex I	Non-Annex I
2014	Mr K. Kumarsingh (GRULAC) (COP – COP)	Annex I	Annex I
2015	(Africa) (COP – COP)	Annex I	Non-Annex I



ボン会合最終日夕刻迄続けられたADP議長選出非公式折衝の結果を拍手で迎える全体会合。

有り難うございました

FoE Japan 顧問

小野寺ゆうり

www.foejapan.org